

市政の正常化のため 取り組んできました



鎌倉市政を市民と働く仲間に取り戻す会は1周年を迎えました

「取り戻す会」は1年間こんなことをやってきました

- 15年12月** 鎌倉市職労と現業評議会は市民団体や労働組合に呼び掛けて市政正常化のための共闘組織「鎌倉市政を市民と働く仲間に取り戻す会」を結成
- 16年**
- 4月～6月** 市内駅頭一斉宣伝（チェックオフ廃止反対、期限切れワクチン、生活保護費不明、北鎌倉隧道崩落問題など）**6月** 市議会、チェックオフ（組合費の給与天引）廃止条例案を否決
- 9月** 全戸配布宣伝（自治研おしらせ、事務所問題）
- 10月19日** 組合事務所追い出し事件、横浜地裁で和解成立
- 10月30日** 市民と市役所職員が市政の未来について語りあう「地方自治研究かまくら集会」開催
- 12月** 「取り戻す会」1周年総会



ブラック企業をなくすため、労働組合は必要です

職場に労働組合があれば、チェック機能も働いてあらゆる違法行為は起きません。

いわゆる「ブラック企業」や「ブラックバイト」などが社会問題になっています。もちろん、行政による監督や指導・是正は重要ですが、何よりも職場・現場の労働者が、経営者と対等に話し合えることが大事です。

だからこそ、憲法28条で労働組合を結成または加入すること、交渉や行動を行うことを国民の権利として保障しています。

あきらめてはいけない 市政の混乱にたちむかおう

2016年10月30日、鎌倉市商工会議所ホールで第17回地方自治研究かまくら集会が開かれ、全体会や分科会で延べ220人の市民や職員が参加しました。

一昨年からつづく一部の議員と市長による労働組合潰しなど市政の混乱のなかで、「地方自治とは何か、鎌倉市内で何が起きているのか」などを知り合い、学び合うために開催したものです。

記念講演をおこなった市内在住で作家の高橋源一郎さんは、「地方自治と民主主義」のテーマで講演を行い、若者（学生）との関係を例にとり「いま、社会も大学も地域も大変なことになっているが、」と前置きして「自分の思っていることが伝わらない、もどかしいと思うかもしれないが、あきらめてはいけない」と呼び掛けました。



市政正常化のためご協力を

一部の議員は組合や職員を口汚くののしり、さまざまな言いかりをつけてきました。市長を煽って組合事務所の追い出し攻撃をさせ、幸い議会で否決されたものの組合費の給与天引き廃止を議員提案するなど、働く者の団結権を「やったもの勝ち」とばかりに蹂躪・破壊しようとする姿勢は許せません。

賃金などの労働条件は労使間（鎌倉市では市長と市職労）の協議において決定すべきものです。労使間の協議や合意形成の努力を全く尊重せず決定しようとするのは、議員自らが不当労働行為の当事者になることにほかなりません。「取り戻す会」は、争いを拡大させ市政を遅滞させるようなことは、すべきでないとうたっています。



もうだまっではられない 市長と一部議員の暴走をとめるのは私たち

2016年12月18日の夕方、鎌倉商工会議所ホールで鎌倉市政を市民と働く仲間に取り戻す会第2回総会が開かれ100人近い市民と職員が参加しました。記念講演に、神戸大学名誉教授の二宮厚美さんを迎えて開催しました。二宮教授がかかわってきた大阪でのたたかいにふれて公務労働運動の置かれている状況を指摘しました。

二宮教授は「公務労組＝既得権の塊」論は、公務員と住民との分断を図る手法だと批判し、全国的教訓として5つの面から民主主義が不可欠と述べました。それは、①住民参加の直接民主主義②首長選・代表制民主主義③議会制民主主義④行政民主主義⑤組合民主主義、です。

鎌倉市政を市民と働く仲間に取り戻す会

事務局：鎌倉地域労働組合総連合 〒248-0022 鎌倉市常盤115-3 TEL 0467-43-5191
自治労連県本部 〒220-0031 横浜市西区宮崎町25 TEL 045-262-0421
「取り戻す会」ブログアドレス <http://blog.livedoor.jp/tell28000/>

鎌倉市職員は様々な現場で、安全で安心な充実した市民生活を支えるために働いています



災害にも日常の見守りにも対応できる直営清掃の維持を

○いつ起こるか分からない災害

東日本大震災や熊本地震のような震災が鎌倉を襲ったらどうなるでしょう。今後起こり得る南海トラフ大地震では鎌倉市の津波の高さは14メートルと想定されています。近年、日本各地で未曾有の災害が続いている中、鎌倉市の災害対策マニュアルは平成19年に策定されたままです。

○清掃職員の災害対応

災害時対応の遅れが市民の生命と財産に大きな影響を与えることを危惧したクリーンセンター職場では、東日本大震災前から独自に震災対応について話し合いを続けてきました。職員は、日頃の業務を通し鎌倉市内の地理や地域性を体得し、特殊な機器も扱うため、現在まで鎌倉市で起こった台風、竜巻、土砂崩れなどほぼ全ての災害で対応しています。海、山、谷、河川が入り組んだ鎌倉で、震災発生直後は通信も使えず指揮系統が途絶える中で、職員個々が如何に行動すべきかを話し合っています。

○地域の要援護者の見守りに ～ 声かけふれあい収集

ごみ出しが困難な高齢者や障害者の世帯を対象に、戸別に声をかけて安否の確認をしながら、ごみや資源物の収集を行っています。訪問先では、声を掛けた時の反応や顔色を見て、気候に考慮しながら、冷暖房の使用や水分補給などの助言もしています。ご自宅で意識を失っているのを見つけて救急車を呼んだり、別の収集作業中に認知症の対象者を見かけて自宅に送り保護したこともあります。

現在鎌倉市で行われている現業職員の不補充政策では、過剰とも思える民間委託化が進み、早ければ数年でこれらの機能を失う可能性があります。災害時だけでなく日々汗まみれ泥まみれになり市民生活を下支えする職員もいなくなってしまいます。

あってはならない不祥事 信頼回復をめざします

最近、鎌倉市では職員の不祥事や不適切な事務処理が幾つも見られるようになりました。職員労働組合は、このことを重く受け止め、ミスが起こりにくい事務体制や、士気の向上を追求して参ります。

現場の職員は、それぞれの職場の課題をみんなで考えながら、仕事の改善に取り組んで、信頼回復を目指しています。



「給食美味しかったよー」がパワーの源

加工品に頼ることなく手作りにこだわっています

スープは鶏ガラで丁寧にダシを取ります。みそ汁は、煮干しで、煮物は鰹節でダシをとっています。カレーやミートソースはルーから手作りです。鎌倉市の小学校給食では、当たり前です。未来を担う子どもたちこだわりの味を伝えるのも、私たち給食調理員の仕事です。



アレルギー対応等 大量調理には「技術・技能」が必要です

先輩から受け継いだノウハウがあります。給食調理員の入れ替わりが頻繁では、それも困難です。調理員が長く働き続ける直営校だからできることです。

空の給食容器が返却されると、給食の時間が無事終了してほっとする毎日です。調理業務は重労働で、一人一人の労力は大変なものですが、「今日のカレー美味しかったよー」「今日の給食今まで食べた中で一番美味しかった」と笑顔で言ってもらえると、もっと美味しい給食を作ろうという気持ちと、パワーが湧いてきます。

食教育の一旦を担っています

私たちの仕事は、調理した給食を運んで終わりではありません。配食した後でクラスに行き、「好き嫌いなく」「バランスよく食べる」よう声をかけることもあります。嫌いなおかずも食べられるように、話をします。子供たちは大きな明るい声で返事をしてくれます。私たちは、日々の仕事に喜びとやり甲斐を感じています。

小学校では、教師だけでなく、栄養士・調理員・養護教諭・事務職員・学校技能員が一丸となって、保護者や地域の方々と一緒に、子どもたちの成長を支えています。

災害時対応も考えています

学校給食職員による炊き出しが行えれば、市民の生命をつなぐことができます。難を逃れた市民が小学校までたどり着いたとき温かい食べ物があるならば、悲惨な状況の中でも何とか頑張れるかもしれません。

単純に「経費削減」「人員削減」のためや「人事管理業務軽減」の理由で切り捨てられるものではありません。

こんにちは！図書館はこんな仕事をしています



○暮らしに役立つ情報の提供

本の貸出以外にも例えば「庭にいるこの虫はなに？」「着物の着付け方」「急な海外出張に備え、その国のこと知りたい」「相続について知りたい」「災害対策の本ある？」等、あらゆる質問を受け、市民が必要とする情報を探します。市内の図書館はもちろん、神奈川県内や全国の図書館と協力して本・情報を探します。専門機関を紹介することもあります。

○子どもたちと本の世界の橋渡し

読みかかせやイベントや本のディスプレイの工夫等を通し、赤ちゃん・幼児・小中学生と、本の世界や図書館を結ぶサポートをしています。

○あらゆる人へのサービス…情報を得ることや活用が困難な方へ

大活字本・朗読CDの貸出、手話によるおはなし会、障害者への図書館の郵送等を行っています。鎌倉市の図書館サービス計画は「図書館利用に障害のある方へのサービス」の推進をかかげています。

○まちの記憶を保存

全国で流通している本以外に「鎌倉の歴史・市民の活動・まちづくり」等を記録する地域の資料を収集・保存しています。これらの記録は今後の鎌倉を考える上でも役立つ情報となるでしょう。

○情報のナビゲート

貸出・予約（本棚にない本は予約やリクエストができます）等の日々の仕事から、市民のニーズを把握し、議論になっているテーマには多様な意見の情報を揃え、「鎌倉の図書館」にふさわしい蔵書を構築し、求められる情報のナビゲートをしています。

■これらのサービスを充実していくために

赤ちゃんから高齢者まですべての市民の皆さんの「知る」を支え、サービスするのが図書館司書の仕事です。

私たちは、まずは現在23年間途絶えている図書館司書の採用を求めています。

情報探索の技術、このまちの歴史・文化の蓄積、市民のための図書館づくりを継承していくのは、図書館職員です。市民と図書館財産の橋渡しをする図書館司書の力が途切れることのないよう努力していきます。

